

No.56
2021年12月定例会

あなたと多良間村議会をつなぐ



村議会だより

CONTENTS

12月定例会

P.2-3 村議会の見学から学んだこと

P.10 審議結果・管内視察

P.4-9 一般質問(登壇6名)

村公式HPでも
読めます



15名の新成人



議場は緊張感がすごかった



多良間中学生が 議会を傍聴



12月議会の一般質問時に、多良間中学校1年生14名と先生達子ども議会に向けて議会を傍聴に訪れました。緊張した面持ちで、静かに会議の流れを見学していました。感想を頂きましたので、その内容を紹介します。

私が多良間村議会で初めて知ったところと子ども議会で活かそうなところがありました。初めて知ったことは、発言する時間が30分間と決まっていることに、自分以外が質問していない時はメモをとっていたことです。子ども議会で活かそうなところは、声を大きく出してハキハキと話すことです。私たちが子ども議会という場を使って、多良間村をこれからもより良くしていきたいです。

清村 仁愛さん

このようなちゃんとした議会を見るのは初めてで、色々な事を学べました。まず、入ると緊迫した雰囲気でした。1人ずつ質問をしていったときに、質問だけでなく、なんでそう思ったかを話していて、分かりやすかったです。それに、納得がいくまで、何度も質問を繰り返していて、とても面白かったです。

諸見里 美柚さん

私が村議会を見て気づいたことは、具体的な例を発言して質問していること、力強い発言をしていることに気づきました。そして、何か言い合い喧嘩みたいな感じになっていたので、議員全員の多良間を変えたいと思う気持ちがとても伝わりました。私達もできないと思うけど、議員さん達に多良間を変えたいと思う気持ちをぶつけていきたいと思います。

亀山 乙葉さん

僕が、多良間村議会の見学にいったことがありますが。それは、みんな発表するときは手をあげて指名されてから立ち上がって発表していたということです。最初、僕は手をあげて指名されてから立ち上がりずに発表すると思っていました。だから僕もちゃんと真っ直ぐ手をあげてハキハキと発表したいと思います。

宮國 有璃さん

私が今日、議会に行って分かったことは、座席の配置などです。また、議場は静かで質問をするとすぐ答えてすごいと思いました。子ども議会では、声の大きさをちょっとでも頑張りたいです。

外間 真徳さん

議会の見学をして学んだことがたくさんありました。議員さんが質問している動きや、座席の配置とかを知りました。最初、議場に入った時は緊張していました。私達1年生は3学期に行う議会があるので、学んだ事をやってみたいと思いました。

知念 夏海さん

今回の多良間村議会の見学を終えて、すごい静かで、緊張感あると感じました。特に始まる前とかは、音が何も聞こえなかったのを覚えてます。次は自分の番なので、村の議員さんの質問のようにできたらいいなと思います。

糸洲 朝輝さん



真剣な表情で傍聴する生徒達

多良間村議会の見学を終えて、たくさんのお話を学ぶことができました。私が子ども議会で活かそうだと思ったことは、「例をあげたり、説得力のある質問、提案、答弁をする」です。多良間がもっと良くなるような提案をしたいです。

野原 雫さん

私たち中学生が議会をするにおいて勉強になることが多くありました。今日、議会をしていた方達は、村民や多良間を観光しに来た人達のために、改善すべき事を解決に向かって話し合いを行っていました。そんな姿を目標に子ども議会も頑張りたいと思います。

田村 花恵さん

議会の議員さん達は、みんな落ち着いて質問したり、返答していて、相手が分かりやすいように、ゆっくり、丁寧な言葉を使いながら話していました。また、メモを取りながら聞いていました。このような事を、子ども議会のできるように頑張りたいです。

高江洲 結愛さん

見学を終えて、議員さんと課長さん村長さんと、質問、答える、質問、答えるの繰り返しを何回も行ってだったので、議員さんは、多良間島をより良くしたいんだなと思いました。また、質問に対して、答えない課長さん達はメモを取っていたので、ただ聞くだけじゃないということが分かりました。

佐和田 ひまりさん

僕が今日、議会を見に行き行って質問するところとか、言葉使いがとても丁寧で、すごいなと思いました。とても静かな雰囲気だったので、僕もまねをできるように頑張りたいです。

宮國 安璃さん

今日僕が、議会を傍聴して思ったことは、質問の仕方や答え方が分かったので子ども議会でも活かしたいです。今日は、議会がどうやって進められているのか分かりました。

山川 将太さん

議会を見てどのように質問するか、答弁するか知ることができたから子ども議会で活かしたいです。

親里 龍馬さん



今回傍聴した多良間中学校1年生の皆さんで、1月20日(木)に子ども議会を開催しました。広報に内容を掲載する予定ですので、ご期待ください♪



とみやま つねかず
豊見山 常和 議員

■美しい村の今後について

多良間村は、2010年に「日本で最も美しい村」連合への加盟が承認されている。これは、国指定文化財の八月踊りと琉球風水より形成されたと言われる抱護林が、「日本で最も美しい村」連合の目的にふさわしい文化自然景観、環境の整っていることが認められたと考える。しかし近年、八月踊りにおける大人の踊り手は、高齢化、子供達の踊り手は低年齢化、まさに人口減少による後継者不足、少子高齢化の影響である。このような中で、美しい村連合への加盟継承はできるのか伺う。また、抱護林について、仲筋地域はまだまだ残っているが、塩川地域は、抱護林としての景観、環境は整っていない。これらのことについて、どのよ

問

答

美しい村連合の
加盟後について

村民の理解と
協力が必要

うな取り組みがなされているのか伺う。

村長

後継者の問題については、美しい村だけの問題じゃなくて、村全体の今後の大きな問題であり、後継者を育成していく、あるいは人口減少を止めていくこれは一体であり、一つのことだけを実施してもうまくいかない。子育て支援、経済の活性化、医療・福祉の充実、教育・文化など全てを網羅した政策をすすめていかないと人口問題、後継者問題は成り立たない。今後ともそれに向けて実行していく。抱護林の保存状況については、まず過去の村の状況、土地問題等を解決しながら、村民の理解を得ていく。

■美しい村の対象地域は

美しい村連合が承認する対象区域はこの八月踊りと抱護林の二つだけなのか、島全体を網羅した取り組みなのか。

村長

美しい村連合の加盟は、島全体、そして島だけじゃなく人の活動、あるいは、人が人と触れ合う心、そういった全てのものを含めて美しい村連合という形でやっている。多良間の場合、大きな二つのものをメインとした位置づけとなる。

■2つ以外の対象区域について

2つに限ったことではないということなので集落内において道路沿いにはみ出た木々等の除去あるいは、空き地等に放置された廃車がたたくさある。これらの撤去等については、どのような対処法を考えているのか。それから集落外において、一周道路、空港、普天間線等枯死木撤去の補植が全くなされていないように感じるが、これに対する取り組みについて伺う。

村長

道路管理で雑草関係は定期的にやっている。雑草の伸びと除草する回数が増えない。美しい村は人の心、人の活動も含めての美しい村であり、行政だけで美しい村を作ることとはできない。村民一人一人が美しい村を作っていく、育てていく、そういう心が必要であり実行できる。道路の植栽については、道路管理上のもこともあり、県管理道という形で何年か続いておりまして、県から村に移管されている部分もありその辺がまだまだうまくいっていない。道路管理としての考えで進めていく。

議会豆知識

「日本で最も美しい村」
連合会とは

生活の営みにより形成されてきた景観・環境や地域の伝統文化を守り、これらを活用することで観光的付加価値を高め、地域の資源の保護と地域経済の発展に寄与することを目的としている。



あさと みきお
安里 三喜男 議員

問

地域振興拠点施設の 二階食堂は

指定管理の方向で 準備している

答

この施設は平成28年から設計が行われ、令和2年に完成して9月には施設の開所式も行われている。島内には、20件前後の観光関連の事業所がある。レンタカー、ダイビングショップ、ペンション等の宿泊施設、食事やお酒を提供する居酒屋等。しかし、島にはお昼を提供する食堂や弁当屋さんがほとんどない状態である。観光客、出張員、島外からの工事関係者の皆さんは、お昼をどのようににされているのでしょうか。お昼が普通に食べられるのは当たり前のこと。お昼前になると、Aコープ前では弁当を買い求める人たちが毎日のように行列ができています。これが島外からの人たちを迎える環境と言えるでしょうか。二階食堂予定部分

■食堂営業開始遅れの理由は

この施設は平成28年から設計が行われ、令和2年に完成して9月には施設の開所式も行われている。島内には、20件前後の観光関連の事業所がある。レンタカー、ダイビングショップ、ペンション等の宿泊施設、食事やお酒を提供する居酒屋等。しかし、島にはお昼を提供する食堂や弁当屋さんがほとんどない状態である。観光客、出張員、島外からの工事関係者の皆さんは、お昼をどのようににされているのでしょうか。お昼が普通に食べられるのは当たり前のこと。お昼前になると、Aコープ前では弁当を買い求める人たちが毎日のように行列ができています。これが島外からの人たちを迎える環境と言えるでしょうか。二階食堂予定部分

観光振興課長補佐

令和2年8月18日付で、多良間村と地域振興拠点施設の指定管理協定を結んでいる。2階レストランを除くとなっている。完成当初から指定管理を行う方向で準備を進めているところであるが、対応が遅れている状況。指定管理に向けて興味を示している企業があると聞いているので、今後も検討しながら指定管理に向けて進めていきたいと思う。

質問

この地域振興拠点施設については、

令和2年8月から多良間村ふしやぬふ観光協会が管理運営をしている。正職員3名、新人1名、パート1名の5人体制で施設の管理、運営に取り組んでいると聞いている。施設自体は村の所有ですので、施設がうまく運営していくまでは、施設管理などの費用が発生するのは理解できる。3月の当初予算でふしやぬふ観光協会補助金として1,365万円、拠点施設管理業務受託料として786万円余り、そして電気料、水道料、ガス料金、エレベーター保守点検委託料、浄化槽維持管理料として312万円、合計で約2,400万円余りの補助金や委託料がふしやぬふ観光協会へ予算として計上されている。運営が始まってから①アクシヨンプラン作成事業、②エコファーマープランディング事業、③観光コンテンツ開発事業、④多良間村SDGs推進事業、⑤グランピング実証調査事業等が取り扱われてきている。今、なぜ各事業の取組状況の説明を求めたのか。この5つの事業を見ると、村から頼まれて引き受ける形の受託事業となっている。各事業費の内訳のほとんどは、8割前後が外注費、外部に委託しているということにな

観光振興課長補佐

人件費に関しては、まだ10月からの人事移動で観光振興課に来ましたので、まだ詳しい人件費の内容の把握はしていない。

意見

何度も言うように、事業導入に当たっては、高額な補助事業だから飛びつくのではなくて、この島に合っている事業なのか、五年、十年後はどうのような展開になるのか。後付けの説明ではなく事業計画導入前に十分に検討してから住民の意見、住民は何を必要としているのか、そういうことも十分に聞きながら、調整しながら進めていってほしい。



もりやま さねお 議員
森山 実夫

■黒糖在庫問題について

県黒糖工業ではサトウキビの増産や新型コロナウイルスの影響などで黒糖在庫が増えていると県内の工場窮状を訴えた。多良間村もこれから国営事業が計画されているが、キビは今後も増産していくと予想される。今回の在庫問題に対して村長の見解を伺う。

■村長

6町村で国支援対策の要請をしている。需要と供給、そのバランスがうまくいっていない。全国で黒糖の需要の量より生産量が増えている状況で在庫が増えている。そういうことを踏まえながら沖縄離島活性化推進事業費が使えないか黒糖工業会が国に申請している。

問 分蜜糖の計画は

答 経営側の判断次第

■分蜜糖の計画は

本村の第一次産業であります、サトウキビ生産は増えていくと予想される。在庫問題も踏まえて分蜜糖にする考えはないか伺う。

■村長

経営側の判断次第。製糖工場が経営の中でどのようにしたらいいか、さらに生産農家の皆さんがどういう方向で理解していただくかと思う。その順番を踏まえて経営側が判断をして農家の判断。理解を得て、その後で村としては行政行動が出来る、先頭になって分蜜にする、しないというふうな立場にはない。

■カーブミラー（反射鏡）設置について

村内には危険な箇所は多々あると思う、特に通学路は危険を要している、早急な設置が必要と思うが。

■土木建設課長

通学路に関しては、沖縄県道路管理課市町村離島班から令和四年度予算措置のため調査依頼があり通学路を教育委員会、多良間駐在、道路建設課で合同点検をし、設置予定をしている。

議会豆知識

含蜜糖と分蜜糖の違いってなに？

- 含蜜糖** 原料から抽出した糖汁を煮詰めて作られる。ミネラル分も原料から除去されなく豊富に含まれているのが特徴。
- 分蜜糖** 近代的な製法を用いて工場です遠心分離機などを使い、砂糖の結晶と蜜を分けて結晶だけを取り出した砂糖のこと。



給食センター前



タウンバラ十字路



JA前十字路

視界が悪いのでカーブミラーを設置予定



とみやまただし 議員
豊見山 正

問

村営住宅建設計画は

答

令和4年度、5年度、
6年度で整備していく

■村営住宅建設計画は

核家族化で村営住宅の需要が増している。長期にわたって住むことができる住環境を整備することが大事である。年次のな建て替え計画はあるか。

村長

村営住宅については南原団地の建て替えで進めてきた。村営住宅の補助率が低いこともあるので、村営住宅の予算の補助率のアップ、それから予算の確保を要請しており、令和4年度から5年度、6年度ということとで予算のめどがついている。

■水納島の水問題について

ふだんの住民の生活もしっかりであ

■通信環境の整備は

水納島に生活する、あるいは交流する人の命を守るという観点から、行政として今後通信環境の整備をどうするか。

村長

水納島の通信環境は、インターネット環境もできているし、WiFiもできている。ただ、台風で使えなくなつた時期があつたようだが、回復しているのか住民に再度確認する必要がある。私はぜひ水納島にも、光ファイバーを引いてほしいと話している。

村長

水納島の水問題については、大きな課題だと思つて県のほうにも訴えてきた。現場からの話では水納の水は、量的にも問題はない。質的にもちゃんと検査をして使っている。今の人口では水の量については十分な量が確保できている。これから観光客が相当な人数入つた場合には間に合わないと思う。県に事業化導入の話をしますと、水納島の水道は簡易水道でない関係で事業導入が難しいということがあり、この解決に向けての道筋が見えない。

■水納島の船舶について

今、水納島航路船は水納桟橋に陸揚げされ、展示物のような状態である。村長は台風のせい、コロナのせいにしたこともありましたが、問題は別のところにある。また、試験運航事業のすり合わせはされているのか。

村長

試験運航は、これもコロナのせいになりますけれども、なかなか実施できない。住民も宮古島からの来島で

さえ控えていることなどもあり、この年度内で行えるかどうかはまだめどがついていない。

■振興についての提言

水納島については、浮桟橋も県に要請されているようであるが、費用対効果は観光から見た効果を考えないと数字がなかなか上がらないのではないかと。質問した水、通信、交通などの生活インフラを早めに整備した後に、例えば多良間島のゆがぶランドのようなコテージを村主導で造り、島民に管理委託をするなど、そういった観光インフラ整備が水納島の振興になると思うが。

村長

提言はありがたい。これをいかに実行していくかということになると思いますので、どういう方向がいいのか検討したい。

意見

基本計画の策定が絵に描いた餅にならないように、実施計画を策定して確実な実行を期していただきたい。



かき はな ゆきのり
垣花 幸徳 議員

答

問

**サーキュラーデニム
事業の見直しは
事業を実施しながら
検討する**

た事業の紹介、多良間島の風景やサトウキビ畑や製糖期の島の様子などを発信していきたい。今年度中にPR動画も作成する予定なので、今のところ、発信は行っていない。人件費については、観光協会は事業の総括と再委託先の株式会社リノベーションに計上している。

め、農家をはじめとした村民への配布を行い、製糖期間中の収穫作業や農業者等に着用していただく予定となっている。また、かりゆしウェアについては、広告等の役割をこなしていただくために、島外への露出のPR効果が高い村長、村職員、議員をはじめ、サトウキビ生産農家、JA、製糖工場関係者等への配布を予定している。観光コンテンツについては、サトウキビ農家と連携し、観光客がジーンズを着用し、サトウキビ収穫体験を行うなど、モニターを予定している。次年以降は、実績報告の説明を行い、また事業を行うかどうかの判断のほうも検討していきたいと思う。

観光振興課長補佐

事業内容は、バガスを活用したデニムユニフォームプロジェクトで令和5年で島内での製造環境確立とあるが、見直し案はないのか。

観光振興課長補佐

今年度は、初年度として令和5年度までの3年間事業となっている。実際に事業は進んでいるので今後実施しながら検討していきたいと思う。

質問

ジーンズはリユース販売のみとあるが、新品ジーンズの需要への対応は。

質問

SNS関連動画は、既に制作されているのか、発信もしているのか。人件費の内訳は。

観光振興課長補佐

SNSについては、主にフェイスブック、インスタグラム等を活用し

質問

ブランドینگ事業の中では、3年後には先進事例地域としての地位確立とあるが、それに対する取り組み方はどのようにするのか。

観光振興課長補佐

本年度においては、来年1月下旬から2月中旬に商品が完成するた

議会豆知識



サーキュラーデニム事業とは

多良間島の基幹作物であるさとうきびの搾りカス「バガス」を有効活用した繊維・デニム生地を開発する。この繊維やデニム生地を使い、エコファーマーのユニフォームを開発する。また、一定期間後、ユニフォームを回収し、ユーズドのデニムとして販売し、収益を農家に還元することによって、6次産業モデルを確立する。また、各種バガス繊維製品については、多良間島の特産品として、消費者向けの販売を想定した製品開発及び、設備導入を行う。



とみしろ げんこう 議員 豊見城 玄弘

問

軽石漂着への対策は

答

作業員及び重機使用等の対応予定

■軽石漂着への対策について

令和3年8月に発生した小笠原諸島の海底火山噴火に由来すると見られる軽石が沖縄周辺に押し寄せている、11月29日には、多良間島でも漂着が確認されているが、当村においての状況と対策について伺う。

土木建設課長

現在2か所、普天間港、前泊港内の軽石対策として作業員が網で軽石を撤去している。重機使用料等の予算は確保してある。

■前泊港振興計画について

前泊港の、今年度当初予算において、水産振興費で水産基盤整備事業委託業務委託料として300万円が

計上されている。これは前泊港での事業計画だと聞いているが、その内容を伺う。

産業経済課長

水産業の基盤整備ということでは、水産物の処理加工施設を計画している。施設の有した整備、施設内の規模等、あるいは水産物ではなく、野菜直売も関連した施設も考慮しながら検討していきたい。

村長

前泊港は県の管理下の区域ですので、以前から県に公園化してもらおうように要望いたしてきておりまして、県のほうもようやく動きつつあると聞いている。

■美しい村の今後について

自治体としての具体的な取組、今後の計画について伺う。

観光振興課長補佐

ビューティフルグリーンデイを設け、集落内の美化作業を行いたいと思う。各区を中心とした取組にしていきたいので、村民のご協力とご理解をお願いしたい。

■ゴミ問題対策について

非常に残念だが、島の自然環境の悪化が進んでいるのではないかと感じてしまう場面に多々見られる。空き缶などのゴミのポイ捨て、いたるところにある廃車、そしてそれぞれ

村長

ゴミ問題については、これまででも繰り返し、片づけたらまた後から放置ゴミが出てくるというようなイタチごっこのような形にもなってきたり、それでも以前に比べたら大分よくなってきたのかなという思いがある。心強く、あるいは粘り強くやっていく以外ないのかなと。それから、放置船についてはどうしたものか、解決策がなかなか見つからないというのが現状であり、各自治体ともこれには本当に頭をいたためており、どうするかをみんなで考えましょう。

■廃船の持ち主確認について

廃船は、元々は個人の所有物。船にはそれぞれ番号が振られており、それを確認して持ち主を調べたり、持ち主に今後どうするか確認するというような調査をしたことはあるか。

土木建設課長

調査はしていない。

6台、普天間港に廃船7隻という状況。子供たちへ負の遺産として残さないために現存するゴミは、今きちんと我々で片づけるべきではないか。今後の計画について伺う。



令和3年第4回定例会審議結果

審議した件名	概要	結果
令和3年度多良間村一般会計歳入歳出予算の補正について	歳入歳出予算額から1億7,966万2,000円を追加し、総額38億1,465万円とする。	原案可決
令和3年度多良間村国民健康保険事業特別会計歳入歳出予算の補正について	歳入歳出予算額から21万3,000円を追加し、総額1億5,747万5,000円とする。	原案可決
令和3年度多良間村簡易水道事業特別会計歳入歳出予算の補正について	歳入歳出予算額から208万2,000円を追加し、総額1億880万6,000円とする。	原案可決
令和3年度多良間村介護保険特別会計歳入歳出予算の補正について	歳入歳出予算額から43万7,000円を追加し、総額1億4,764万5,000円とする。	原案可決
令和3年度多良間村後期高齢者医療特別会計歳入歳出予算の補正について	歳入歳出予算額から116万円を追加し、総額1,204万円とする。	原案可決
離島振興法の改正・延長を求める意見書	現行の離島振興法が令和4年度末をもって失効することから、抜本改正の上、恒久法化も視野に入れて延長されるよう、強く要望する。	原案可決
軽石の大量漂流・漂着に関する要望決議	影響の長期化を防ぎ、様々な分野において迅速かつ継続的に対応していくための支援が必要であることから強く要望する。	原案可決



議 会 ト ピ ッ ク

2021年12月定例会 管内視察

軽石の大量漂流・漂着の視察

本年8月に発生した小笠原諸島・福徳岡ノ場の海底噴火に由来すると見られる軽石が、10月初旬頃から沖縄県内各地の海岸や漁港・港湾等に大量に漂着しています。多良間村も11月29日に軽石が確認されましたので、状況確認をしてきました。



編集後記

島が活気づいている。1年の中で、一番のかき入れ時で農家のみなさんが最も忙しい時期でもある。今回は「薄れゆくゆいマールの心」について考えてみたい。携帯電話の普及を前後して世の中（全世界）の生活様式が一変したと言われている。情報の氾濫の始まりである。かつて、30数年以前までは部落内で数組のグループ（5〜6名）があり、持ち回りでキビの刈り取り、搬入作業が行われていた。いわゆる『ゆいマール』である。今現在は、収穫も機械化が進み「ゆいマールグループ」ももたなくなつた。人は人との繋がりがなくしては生活できない生き物だと言われている。変化する時代の流れの中でも、「ゆいマールの心」はもちつづけていきたいものである。村民のみなさんまだまだ寒い日が続きます。健康管理には十分に留意され毎日の仕事頑張ってください。

議会広報委員 安里 三喜男

